

# 第 101 回 維持管理研究会 議事録

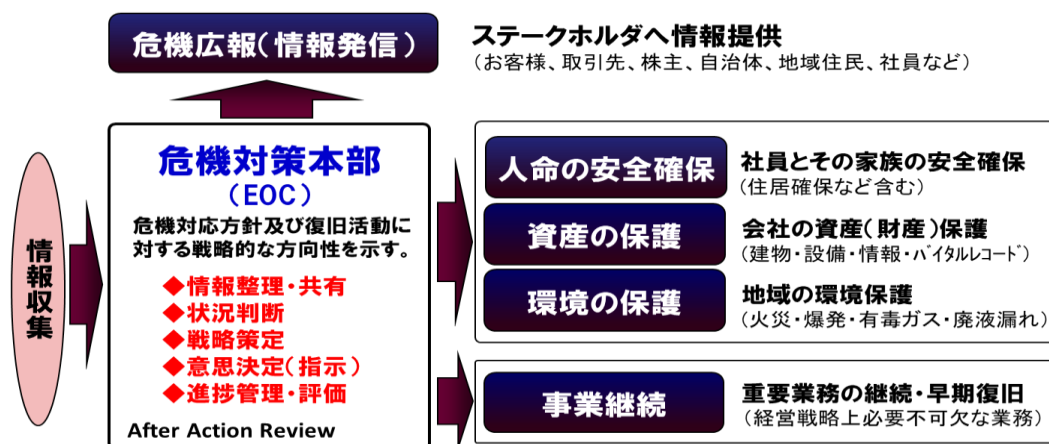
1. 開催日時 : 2019年11月14日(木) 16:00 ~ 18:00
2. 場 所 : 富士通マーケティング様 会議室
3. 出席者(敬称略) 9名  
井上、大塚、澤田、守護、菅谷、田中、永田、柳谷、中谷(記)
4. 研究テーマ

## (1) 危機対応における組織体制について

危機対応とは、曖昧な状況で、時間的な余裕もなく、世間の評価が厳しい中で、組織として、緊急事態を乗り切るために膨大な仕事をこなす事態のことである。

なお、危機対応を行うための組織は、あらかじめ構築し、教育・訓練(演習)を通して、役割の認識(スキル)や各種リソースを使いこなせる力量を備えておく必要がある。

B C M 運営者は、危機対策本部の対応要員の一部に組み込むことが必須である。



## <危機対応のミッション>

危機対応とは、緊急事態発生時に人命の安全確保、資産(財産)や環境を保護すること、重要業務の早期復旧、及び危機広報を明確にすることである。

## <主な活動内容>

- ・情報収集: 周囲の状況、社員の安否、被災状況、顧客や取引先の状況、主要業務への影響など
- ・連絡調整: 対策本部内の指揮命令や報告、要請、複数の部門間の調整など
- ・物資調達: 主に被災した事業資産の修復や買替え手配(建物や設備、什器) スタッフの食料調達など
- ・人員管理: 総務・人事の役割、大災害では復旧活動に当たる要員の心身面のケアなど
- ・復旧活動: 被災で未処理になっている作業の指示・命令・進捗状況の確認など
- ・危機広報: 顧客・取引先への自社の被災・復旧情報の通知(クライシスコミュニケーション)
- ・予算と経費管理: 被災資産の修復や買替え、宿泊費や食事代、復旧に関わる資金調達、経費管理など

## ICS(インシデント・コマンド・システム)による役割の付与

ICSとは災害時の命令系統や管理手法を標準化したシステムで、5つの基本機能として指揮・調整(責任者)情報作戦、資源管理、庶務・財務、事案処理の役割があり、共通として危機広報、安全管理等が危機対応の役割がある。

(2) 危機対応時の情報規格について

<情報源の信頼性評価 (例)>

各付	説 明
A	完全に信頼できる これまでも利用し、その有効性が証明された情報源で、信用して頼ることが出来るもの
B	通常は信頼できる 今までは有効であったが、依然として幾ばくかの疑問が残る情報源で、国や地方自治体等があり、誠実と考えられている情報が当てはまる
C	ある程度信頼できる 今まで何度も使われてきた情報源で、その結果からある程度信用のおけるもの
D	基本的に信頼できない 今まで使われてきた中で、信頼できないことが、しばしばあった情報源である
E	信頼できない 今までの利用実績から信用に値しない情報源である
F	信頼できるかどうか判断できない 未だ使用したことが無い情報源である

<情報源の信憑性評価 (例)>

各付	説 明
1	他の情報源によって正しさが確認されている その情報を元来報告したところとは、別の情報源がその情報は間違いないと確認した場合
2	かなり正しい 報告された情報の核心部分について、別の情報源が間違いないと確認する場合
3	たぶん正しい 報告された事実や行為に関する調査からは追加情報が得られなかったが、その情報が過去の行為、又は入手している背景情報と矛盾しない場合
4	疑わしい 情報が、過去に報告され、妥当性が確認された情報と一致しない傾向を示す場合
5	ありえない 情報が、過去に報告され、妥当性が確認された情報と明らかに一致しない場合
6	判断不能 新たに報告された情報が、比較すべき情報を持たない場合

(ISO22320 引用)

以上